

## ■「効果の見える治水事業」

### 香川県 局地的集中豪雨対策事業

『急な増水による水難事故防止のための警報システム』

あべたかお  
香川県土木部河川砂防課長 阿部 孝雄



近年、地球温暖化に伴う気候変化などにより、「ゲリラ豪雨」とも呼ばれる局地的集中豪雨が全国各地で甚大な被害をもたらしています。

香川県では、こうした状況を踏まえ、局地的集中豪雨対策として公園やキャンプ場などの親水施設のある河川で、特に利用者の多い19河川27箇所にて水難事故の注意を促す看板を設置しました。

また、そのうち、年間の利用者が多く、過去に急な増水が発生している8箇所（造田運動公園、美霞洞親水広場他6箇所）を選び、急な増水を河川利用者にいち早く知らせ、迅速な避難ができるように警報装置の設置を行っています。

この装置は、周辺の3~4箇所の雨量計や上流の水位計の観測値が一定の基準に達すると、川で遊んでいる人に、赤色灯やサイレン、スピーカーで危険を知らせるシステムで、設置後には地元の小中学校において警報装置や水難事故防止の説明会を行っています。

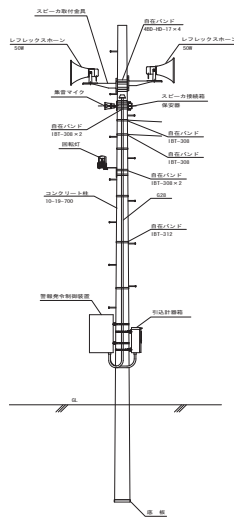
また、急な増水による水難事故を防止するためには、日頃から県民の防災意識を高めることが重要であり、河川砂防課のホームページでの水難事故防止のPRや、県内の市町や学校などに「水辺の安全ハンドブック」や、安全啓発ポスターの配布などさまざまな手段を活用し局地的集中豪雨による水難事故防止の啓発活動に取り組んでいます。



急な増水の注意喚起看板



小学校での説明会



警報装置

「誰もが住みよい、住み続けたい町づくりを目指して」

くりた たかよし  
まんのう町長 栗田 隆義



香川県の南西部に位置する本町は、平成18年に近隣の琴南町、仲南町、満濃町の3町が合併し、新まんのう町として出発しました。人口は約2万人、面積は194.33km<sup>2</sup>となり町の南西部には町の名前の由来にもなっている日本一の灌漑用ため池である満濃池をはじめとして、町内に大小900ものため池が点在しています。町の南には標高1000mを超える竜王山、大川山を主峰とする阿讃山脈が連なっており、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が町の中央部を流れており、ため池と同様に田畑を潤しております。

気候は瀬戸内式気候であり、年間を通じて温暖少雨で日照時間が長く、降水量は年間1,000~1,400mm前後で降雨は梅雨期と台風時に集中し、その他の時期は少ないため干害が起こることもあります。その対策として古くからため池が作られています。

琴南地区においても、今まで数々の台風災害に見舞われてきましたが、平成16年災害では満濃地区と同様に道路、河川に大きな被害を受け、幸いにも住宅には被害は少なく増水による河川の改修の要望が多く出されています。

また、唯一の一級河川である土器川の琴南地区においては、香川県により親水公園として整備された、土器どき広場(運動公園)があり、オートキャンプ、スポーツ、各種イベント等に県内外から沢山の利用者がおり、水と親しめる場所として幅広い層に活用され喜ばれています。また、上流にはその昔、平賀源内が紹介したと言われる良質の泉源があり、美霞洞温泉の湯として利用されており、美霞洞温泉の近くには自然環境に恵まれた渓谷もあり、水と親しむ憩いの場所として、ふるさと砂防事業により河川整備がなされ多くの人々に利用されています。これらの施設には急な増水による利用者の安全確保を図るため、県により警報装置が設置されより安全が図られています。

また、平成16年災害では山腹が崩壊し、田畑を荒らし人家の近くまで土砂が押し寄せたり、増水により家屋に浸水するなど多大な被害が発生し、河川改修については多くの住民の方々から要望を受けており、関係者の協力を頂きながら河川改修に取り組んでいきたいと考えております。

災害は何時発生するかわかりません。国、県と協議しながら、町の貴重な財産である緑あふれる自然、歴史、文化を大切にしながら誰もが「いつまでもここで暮らしたい」と思える災害に強い、安全、安心のまちづくりを目指して参りたいと考えております。

[琴南・土器どき広場]



[琴南・美霞洞温泉と渓谷]

